

原ゆうじ市政報告 VOL.75

松戸市に関すること、困りごとのご相談はお気軽に！！

TEL 070-5540-9565 メールアドレス yuji.hara88@gmail.com

ブログも好評配信中！ 公式 HP:hara88.mobi 発行元:松戸市上本郷905



(原ゆうじのプロフィール)
1965 年松戸生まれ 上本郷小、松戸六中、立教高校、立教大学理学部化学科卒。
長瀬産業(商社)勤務を経て家業のベーカリー店を継ぐ
H22 年市議初当選、
現在 3 期目

松戸市議会議員、原ゆうじ市政レポート 税金の無駄遣いは許さない！ 3年夏号

スポーツセンターへの自家送電が実現！

原ゆうじの提案が実現！

年間 2,034 万円の電気代削減へ！

和名ヶ谷クリーンセンター (C,C) ➡ 隣接のスポーツセンターへ自家送電！
ご存じですか？和名ヶ谷 C,C のごみ発電！ 発電した電気で年約 1.5 億円の収入！

和名ヶ谷 C,C では、市民から出されたごみを燃やした際に発生する蒸気を使ってタービンを回し、発電を行っています。発電された電気は、まず清掃工場内で消費され、余った電力は販売(売電)されています。

原ゆうじの提案実現！随意契約から入札へ！

(和ヶ谷 C,C 発電量、売電量の推移表)

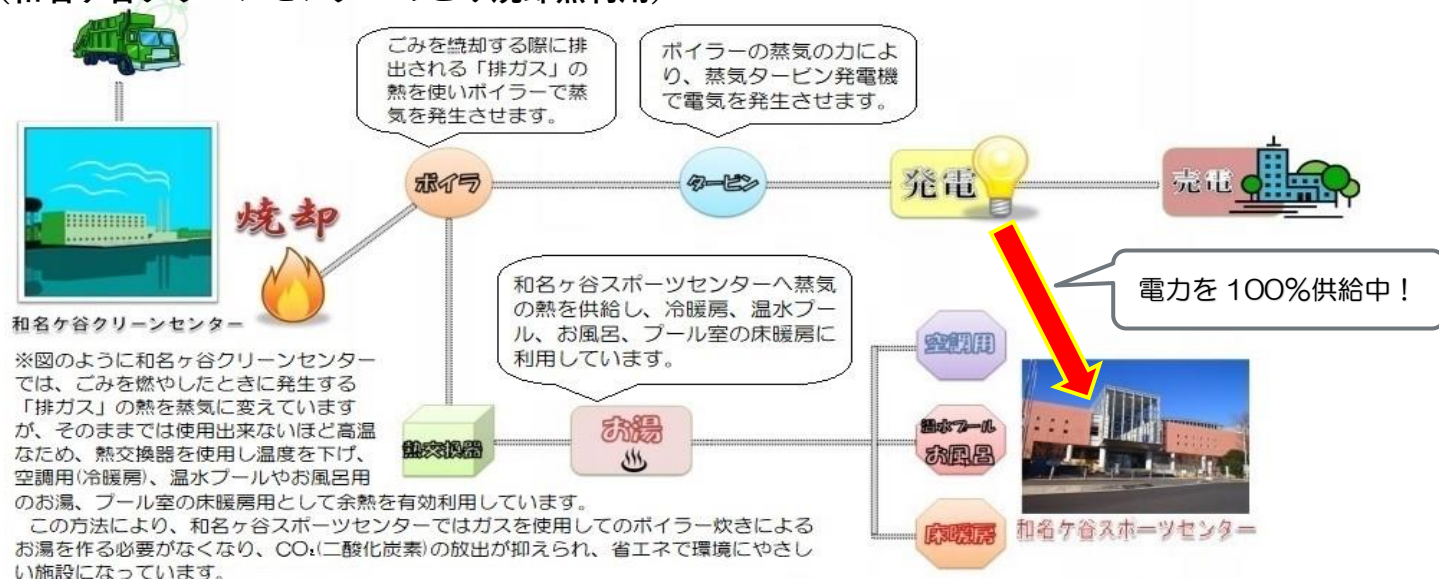
松戸市は 26 年度まで東京電力へ随意契約で販売していましたが、入札での販売を！との原ゆうじの提案が実現。27 年度からは、競争入札による販売に切り替わり、結果、売電単価が上がり約 9000 万円の増収となりました。

しかし、近年需給バランスの変化により、単価が下がり、元の水準に逆戻りしてしまいました。このピンチで原が提案したのが、

年度	発電量 kwh	売電量 kwh	売電金額
平成26年度	25,358,600	12,652,426	1 億 4,354 万円
平成 27 年度	25,237,310	13,264,601	2 億 3,439 万円
平成 28 年度	25,173,010	13,242,040	2 億 3,392 万円
令和元年度	24,417,720	12,093,175	1 億 4,976 万円

隣のスポーツセンターへ送電を！熱に加え電気も自家消費、電気代削減！

(和名ヶ谷クリーンセンターのごみ焼却熱利用)



和名ヶ谷 C,C で発電し販売している単価は下がり、結果、隣のスポーツセンターで購入している電気価格(再エネ賦課金含む)の約 2 分の 1 となっていました。そこで、値下がりした売電単価を逆手に、「現状では、売電よりも、クリーンセンターからスポーツセンターへ送電線を引き直接、電気を送るべき！こうすれば 2 倍の価格で売ると同じ効果だ！」と市に提案！送電線設置費用と対する電気代削減の効果がどうなるのか？何年で元が取れるのか？という費用対効果が問題となりましたが、さてどうなったのでしょうか、裏面へ

送電線設置完了！松戸初の電気の地産地消が実現 スポーツセンターは全てごみ発電 電による電気に！購入電気ゼロに！

送電開始で、売電から自家消費に！その削減効果(結果)はどうなった？

原ゆうじの提案が実り、令和元年 10 月に和名ヶ谷 C,C からスポーツセンターへの送電が開始されスポーツセンターは全て発電による電気の使用となりました。
(自家送電線、埋設工事の様子)

送電前平成 30 年度と送電後令和 2 年度との比較は
スポーツセンターの電気購入額は、
2938 万円からゼロに、①2988 万円の削減効果
和名ヶ谷 C,C の電気販売額は、
1 億 4113 万円から 1 億 3444 万円へ②669 万円の減少
その他経費、③235 万円の増加 ということ



差し引きの事業（経済）効果は、①2938－②669－③235＝2,034 万円！

和名ヶ谷 C,C からの送電線設置費用は約 4800 万円なので、2 年半ほどで元が取れることもわかりました。

電気代削減だけでは無い！CO2 削減&災害対策の効果も！

効果②：CO2 削減 和名ヶ谷 C,C で発電される電気は、ごみを燃やして作られるため再生可能エネルギーの位置づけです。ですので、スポーツセンターのこれまで購入してきた電気が、和名ヶ谷 C,C で発電された電気になるということは、結果として、ほぼ再生可能エネルギー100%の電気を使うことになりました。
年間電気使用量は、118 万 kwh でしたので、松戸市から見れば約 453 トンの CO2 削減となりました。

効果③：災害対策 和名ヶ谷スポーツセンターは災害時の避難所ですが、停電となれば発電機によるわずかな電気しか使えません。しかし、ごみ発電による電気で賄われるようになったスポーツセンターは、停電することなく、普段と変わらず空調機器も使用が可能で、ごみ焼却熱を利用した浴室もあり、こちらも使用可能です。ですので、停電時でも、クーラーも浴室も使える完璧な避難所が今回、生まれたことになります。

再エネの普及で、環境&経済性&災害対策の一石三鳥を！！

和名ヶ谷 C,C から他の市施設へ送電出来ないか？市役所など和名ヶ谷 C,C から離れた施設に送電するには、今回のような自家送電は無理なので、東電の送電網を利用しなくてはなりません。しかし、問題なのが託送料です。託送料とは送電の際にかかる料金ですが、東京電力管内では、kwh 当たり約 8.6 円となっています。なので、発電した電気を市の施設に送電する際には、このコストがかかり、現状では、電気の購入単価を上回ってしまいます。

原ゆうじの考え！地球温暖化は待ったなし！さらなる再生可能エネルギーの利用を市としても図らなくてはなりません。松戸市の立地では、風力や水力などは期待が出来ません。そこで、原が考えるのが、太陽光発電です。屋根や屋上で太陽光発電をし、その電気を施設内で自家消費するモデルが現状ではベストと考えます。経済性では、太陽光パネルの値下がりにより、わずか 5～7 年での費用回収が見込まれ、その後の 17～20 年は発電した電気はタダで使えます。特に市の施設での設置は、災害での停電時でも電気が使えようになり、災害対策にもなり、もちろん施設の電気購入も減るので、CO2 削減にもなります。原ゆうじは、環境、経済性、災害対策の一石三鳥ともなりうる市施設での太陽光発電 & 自家消費を市に提案、必ず実現へと頑張ります！！